

【青葉区】平成30年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	平成30年2月6日(火) 午前9時30分から午前11時まで
場 所	青葉区役所4階 401～403会議室
出席者	【座 長】大貫憲夫議員 【議 員：6名】行田朝仁議員、横山正人議員、山下正人議員、藤崎浩太郎議員、菅野義矩議員、青木マキ議員
	【説明局員（青葉区）：33人】 小池恭一 区長、小出重佳 副区長、勝島聡一郎 福祉保健センター長、近野真一 福祉保健センター担当部長、楨重善 青葉土木事務所長、淵上正基 青葉消防署署長、 ほか関係職員
議 題	平成30年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算について
発言の旨	<p>ソーシャルパワーの發揮事業は、とても大事なことで継続していかなくては行けない。一方で、昨年のこの会議で3年ぐらいで見直していくという指摘が出ていた青葉ブランドの認定についても、やはり継続していかなくては行けないだろうと思う。</p> <p>予算原案の中で、例えば青葉ブランドは、区づくり推進費で185万円が計上されているが、ソーシャルパワーの4つの柱のうち次世代育成の推進では、180万円が区配予算である。結果も出さなくては行けないし、状況に応じて変化していかなくては行けないと思うが、3年たった後の次の3年の枠組みの構築は、今のうちからやっておかないと、区でせっかくなにかいいものも考えても、「ないから、もうやめます」ということにならないかと、心配になる。</p>
	<p>ソーシャルパワー事業は、こども青少年局や経済局の予算も入れながら、区づくり予算も足して進めている。これはずっとやっていかなくては行けない事業で、うまくいけばいくほど、事業が膨らんでいくものだと思う。今年度の成果については、ソーシャルパワーの3つの各事業で、100名を超える参加者があった。そのうち約半数は、担い手になっていただけであろうリーダーのところに集うような形が見えてきた。これを地道に続けていけば、担い手がある程度そこから出てきて、地域を引っ張るような方も出てくるのではないかと、やはり続けていかないと意味がない。局からの予算配付も働きかけながら、区の事業としても途絶えることなくやっていきたい。</p> <p>青葉ブランドについては、3年を目途ということを前回申し上げたが、今年は去年の倍以上の応募があり、区民の皆さんに非常に良いお店を推薦していただいた。選んでも良いお店がまだまだたくさんあると思っている。今は、少し伸ばして5年ぐらいを目途に、という考え方を持っているが、選ばれたお店がいわゆるシェフクラブのようなものを作って、できれば自立的に活動していただくということも考えている。認定については、公の機関がやらないと認定にはならないので、認定委員会を開くことになると思うが、委員の皆さんのご協力もあり、多額の予算をかけずに事業を進めていけそうな見込みも立っているので、それをうまく継続していきたい。ただ、5年程度経ったら事業を見直していかないと、お店がどんどん増えていってしまう。おそらく70から100程度までは、青葉区のブランド力を維持できるお店を選べると思うので、そこから先は、新たな展開を考えていきたい。区づくり予算で多少は補完しながらやらないといけませんが、今年度の局の予算概要を見ると地域に対して大分目を向けていて、中期計画でも子ども、経済、地域力を育てるということが入ってきている。そういった点も踏まえ、局にも働きかけながらやっていきたい。</p>

行田議員	<p>事業の進捗とともに、変えるべきところは変え、継続して進めていただきたい。</p> <p>「Dance Dance Dance @YOKOHAMA」が市の来年度予算案で大きく入っている。その中の項目で、各区との連携がかなりクローズアップされていて、確かに青葉区の中を見ている、ダンスをやっている小中学生が増えている。そのような場を提供するということが、公共の役割として出てきていると思うが、このあたりの考え方について伺いたい。</p>
功刀地域振興課長	<p>「Dance Dance Dance @YOKOHAMA」については、区としては、企画の提出について文化観光局と調整をしている。親子向けのダンスイベントということで、青葉スポーツセンターで実施されているキッズダンス教室の生徒さんをはじめ、広く公募し、夏休み後半に予定しているダンスの発表会などを目指した練習会を行う、というようなことを企画している。成果発表にあたっては、ダンサーに来ていただくなど、工夫をしていきたいと考えている。</p>
行田議員	<p>デパートや駅周辺の場所なども借りて、多くの人に入ってきてもらって、となると、局だけで行うのは無理だと思うので、やはり地元でいらっしゃる皆さんにご活躍いただく必要がある。</p>
横山議員	<p>ソーシャルパワーの発揮について、区の主要事業、看板事業にしたいとなると、区の組織の独自性を発揮していくべきではないか。例えば人員を厚くすべきところを厚くしたり、「ソーシャルパワー発揮担当」といった兼務辞令を出すなど、わかりやすさも求められるのではないか。</p>
小池区長	<p>ソーシャルパワーの事業は、こども家庭支援課と高齢・障害支援課、福祉保健課の3課がそれぞれ、1%というテーマに沿って各事業を推進している。このようなやり方は他の区にはないと思う。全課が同じ意識を持って取り組む事業であり、こういったことを福祉保健センターが始めるというのも、他の区にはない、青葉オリジナルだと思っている。</p> <p>組織についても、乳幼児から青少年までを切れ目なく、ということで、青少年育成業務を地域振興課からこども家庭支援課に移管しているが、これも青葉区しかやっていない。青少年指導員の会長さんなどにも評価いただいております。うまく連結ができてきている。また、総務部の区政推進課、地域振興課などは近接的な仕事をしており、個人的には、総務部の中にフレキシブルに3～4人の課長がいて、区によって重点化することが異なるので、固有の担当名をつけてプロジェクト的に取り組んでいったほうが良いのではないかと考えている。</p>
横山議員	<p>青葉区が他の17区の模範となるような、独自の取組や仕組みに変えていってほしいと思う。</p> <p>児童虐待防止について、常に考えなければいけないのは死亡事例をなくすということである。子どもの命を最後に守れるのは、公権力を行使できる公務員しかいない。区役所の接触があっても最悪の事態に至ってしまった事例もある。区役所が「おかしいな」と思ったら、すぐ児童相談所へつないだり、一時保護の判断を下すことが、最終的に子どもの命を守ることだと思うが、どうか。</p>
樋田こども家庭支援課長	<p>虐待については、早期に発見し、適切に対応することが非常に重要である。担当者が把握した時点で、すぐに組織として、責任職も入って検討会を開き、適切に対応していきたいと思っている。平成30年度は、弁護士の助言をもらえるような検討会を行い、重篤な事例にならないよう体制を強化していく。</p>
小池区長	<p>今申し上げたように、センターとしてできるだけ早期に対応するように、万全を期している。</p>
横山議員	<p>手遅れにならないように、青葉区からは死亡事例は絶対に出さないという意気込みでお願いしたい。</p> <p>地域スポーツ振興に関連して、谷本公園の事業進捗状況はどうか。</p>

吉田区政推進課担当課長	谷本公園については、局から北側部分の用地取得の手続きを進めていると聞いている。取得したところはなるべく早目に開放してほしいということも、局には伝えている。
横山議員	実際に買収するのは局だが、情報提供するのは、地域に近い区役所である。区役所が全庁を挙げて情報提供、あるいは具体的に言えば用地買収のお願いをしていくべきと考えるが、どうか。
小池区長	局にも伝えているが、区としても頑張っていきたいと思う。
横山議員	区役所として、今年度、地権者とどのくらい接触しているのか。
吉田区政推進課担当課長	区役所としては、直接地権者とは接触はしていない。
横山議員	一番住民に近いところに区役所がいるからこそ、局と連携して積極的に取り組んでいただきたい。 まちづくりの推進に関連して、市ヶ尾周辺の電線の地中化について、区役所の第二駐車場周辺は毎年消防出初式が行われ、多くの区民が電線の向こう側で行われる出初式の様子を見ている。あの電線がなくなれば、すばらしい「インスタ映え」した写真が撮れ、区民から見てもわかりやすいのではないかと思っている。局にも、そういうわかりやすいところから地中化を実施すべきだと言っているが、ぜひ区からも積極的に言っていたいただきたいと思う。
吉田区政推進課担当課長	ご指摘のエリアは、地中化を行うことは決定している区間である。全体で10年ぐらい時間がかかると道路局から聞いている。
木村土木事務所副所長	今年度、試掘を既に土木事務所の前等で実施している。その試掘に基づき、来年度に設計を進めて、その後発注をしていくということを局から聞いている。
横山議員	来年度に設計が済むということか。
木村土木事務所副所長	来年度、その詳細設計に入るというように聞いている。
横山議員	それでは、次々年度ぐらいには動いていくということか。
木村土木事務所副所長	地下埋設物が輻輳しており、その移設を順番に行っていかなければいけないという事情がある。電線類地中化の工事にあたっては、ちょっと時間がかかると聞いている。
小池区長	ただ、その期間が終われば、おっしゃるような景観が実現すると思う。
山下議員	シェアリングエコノミーについて、会議室をシェアリングするというのは、具体的にどのようなスペースを考えているのか。大学とか、そのようなところか。
鈴木区政推進課長	まずは空きスペースのシェアを広げていきたい。民間のお宅や、企業等の空いている部屋、会議室などをインターネット上に登録して、貸す方と借りたい区民とがインターネットを介してマッチングする、といったことを考えている。
山下議員	個人の自宅ということか。
鈴木区政推進課長	民間企業の事務所や商店などの空いているスペース、個人のお宅の空き部屋も想定している。
山下議員	具体的にはまだ決まっていないということか。
鈴木区政推進課長	はい。

山下議員	<p>みなとみらいでは、ドコモさんの協力でベイバイクをやっている。田園都市線沿線のまちづくりの中でも駐輪場のことが出ていたが、青葉区には関内・桜木町方面に通勤している人も多く、例えば実験的に自転車のシェアリングエコノミーとしてこちらと向こうで連動させることなど、何か検討はできないか。</p>
小池区長	<p>大事なお指摘だと思う。現時点ではまだ検討に入っていないので、ご指摘を踏まえて念頭に置きたいと思う。</p>
山下議員	<p>田園都市線沿線のまちづくり検討事業について、非常に良い事業を考えていると思う。30万人規模の街をどう作っていくかは大事な視点で、資料を見るとたまプラーザ周辺がなぜ混雑するのかというのがよくわかる。この検討になると、結局まちづくりの問題が出てくると思うが、例えばたまプラーザ駅前には特に土日は大渋滞する。また、あざみ野駅前も変則的なスクランブル交差点になっており大渋滞する。こういったところを将来的にどう改善していくかということも、検討の中に入ってくるのか。</p>
小池区長	<p>当然、入ってくると思う。青葉台駅周辺の渋滞やバスターミナルの問題もある。また、あざみ野駅は特に地下鉄が伸びることや、藤が丘駅も病院とのかかわりなど、それぞれの駅にそれぞれの課題がある。この検討の中でそれらの課題をさばきながら、1つ例を出せば東急電鉄さんなどともどのようにやっていくかということも、大きな課題だと思う。</p>
山下議員	<p>現実問題として、田園都市線は事故も多く、頻繁に止まってしまう。また、このような混雑も、誰もが嫌だと言っている。加えて地域でも渋滞が多いとなると、街としてのブランドイメージが下がってくる。「住み続けたい街」というのを掲げているのだから、その視点からも、やはり東急さんともいろいろな相談をしながら進めていただきたい。格好いい街であって、ブランド力のある街というのが、青葉区のイメージではないか。そこを持続していただきたい。</p> <p>みなとみらいで今度接続バスを走らせる計画が出ている。このようなことを一番にやるのはみなとみらいである。でも、例えば東急さんも、あざみ野とすすき野団地の間をつなぐ接続バスの実証実験をやっている。せっかく広い通りがあるのだから、目玉になるような接続バスの運行も、このまちづくり検討の中で少し考えてみてはどうか。環境に配慮した、低床の高齢者に優しい接続バスが青葉区を走っている、という良いイメージにもなる。</p>
吉田区政推進課担当課長	<p>駅前の基盤整備の再編や交通システムに関しても、この検討の中で議論していきたいと考えている。</p>
藤崎議員	<p>全体について、重点項目にされているにもかかわらず、減額になっている予算項目がいくつかある。もちろん重点で拡充されているところもあるが、この重点事業と減額というのはどのように捉えればいいのか。</p>
小池区長	<p>基本的には矛盾がないようになっている。例えばスポーツ推進事業では委嘱がなくユニフォーム代が減額になっていたり、他の事業との組みかえにより予算が他の項目に動いているものもある。少額の見直しはもちろんあるが、先生のおっしゃった意味での矛盾はないので、もし必要であれば個別に後でご説明したいと思う。</p>

藤崎議員	<p>例えば大学連携事業では5万2000円も減額されており、この事業にとっては大きいのではないかと思ったので伺った。</p> <p>認知症対策について、徘徊ネットワーク事業に加えて新規で3つの事業が掲載されていて、初期集中支援チームなどは市全体でも動きのある話だが、これまで徘徊高齢者安心ネットワークの実績について、どのくらいの機関にご協力いただいているのかと、実際に徘徊高齢者の早期発見にどのくらいつながってきているのか伺いたい。また、啓発運動もされているが、昨年も「RUN伴」などの取組もあったが、各施設ではむしろ介護という枠組みの外に出て、シームレスなまちづくりと共生という形で認知症ケアを行おうという取組が全国的にも事例が出てきていると思う。横浜市全体の問題でもあり同時に、青葉区としてその辺をどう見据えて取り組まれるのかということをお聞かせいただければと思う。</p>
室山高齢・障害支援課長	<p>認知症の医療機関連絡会については、28年度から準備を始めて、30年度は予算をつけて行っていく。特に医療機関の連携について、区内には診療所や病院がたくさんあるので、認知症の方の診療がきちんとできるネットワークを作ろうということで進めていく。</p> <p>徘徊高齢者安心ネットワークについては、29年度の登録者数（認知症で登録されている方）は141人おり、そのうち29年度中に捜索の依頼があったのは6件だった。ただし、これはいずれもご家族や警察によって発見されていて、このネットワークに協力をいただいている機関・団体から発見されたという事例は今のところない。協力機関は引き続き増やしていきたいが、外部との連携というところで、まず認知症を理解してくださる方を増やすということ、それが商店街であったり、いろいろな銀行や郵便局の窓口であったり、また子どもたちであったり、そのあたりを増やしていきたいと思っている。</p> <p>先生もご参加いただいたRUN伴のイベントだが、このような認知症の方たちを支えるというイベントをもう少し見える化していきたい。ひとつは、認知症カフェを増やしてきているので、そういった場が街の中にもあるようにしていきたい。</p>
藤崎議員	<p>商店街などでもサポーターの研修をされたり、RUN伴のような取組も新聞等で報道されたりということがあるので、身近な話題として注目されやすいような取組を少しずつ入れられると、地元のタウン誌や各種新聞で取り上げてもらえれば、また情報に触れられる機会も多くなるのではないかと思う。そのようなことの積み重ねで意識の向上につながると思うので、積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>ブックカフェ事業について、青少年の居場所づくりとなっているが、山内図書館と区役所1階の区民文庫サロンを活用するということだと思うが、田奈高校でも「びっくりカフェ」といったものがある中で、そのようなところも意識している取組なのか、また全然違う形でやるのか、どのような青少年の居場所にしようとしているのか。そもそも図書館等に来てもらうのか、または図書館等に来ている人に何か手を差し伸べていくのか、それによってやり方が全然違ってくると思うが、どのような事業なのかを教えてください。</p>
岡本学校連携・子ども担当課長	<p>あおば子どもシステムの話し合いの中で、小学校までは放課後キッズクラブがあるが、中高生の居場所がない、子どもを居場所まで引き出すのに本を媒介にして大人と交流するのがいいのではないかと、というご意見をいただき、考えたもの。一つのモデルは、既に大人向けにやっている山内図書館のカフェ事業である。これは図書館に来てもらうものだが、必ずしも本が好きな子でなくても、ちょっとおもしろいコンテンツやテーマで、ビブリオバトルも1つの方法かもしれないが、大人と対話ができるような、それも大学生やいろいろなパネリストを用意しながらやっていきたいと考えている。二つ目の区役所1階の区民文庫サロンでは、市ケ尾ユースプロジェクトの関係で、中高生と何か一緒にやりたいという方のアイデアなども受け入れながら、初年度でもあるので、広く模索していきたい。</p>

藤崎議員	<p>年8回なので定着しづらいとか、いつでもそこでやっているわけではないということが、本当に居場所になるのかなというところがちょっとひっかかっているの、それが何かにつながっていくということだとは思いますが、大事な試みなのでうまくやっていただきたい。</p>
菅野議員	<p>児童虐待、DVについて伺いたい。児童虐待については、市全体で児童相談所に連絡があったものは全部で約4,100件、各区では約2,100件、そのうち約半分が0歳から6歳の子が虐待を受けたもの、となっている。実際にはこの数字よりかなり多いのではないかと指摘もある。どうやって把握していくか、どうしたら助けられるか。いろいろな手だてがあると思うが、本当に地域を巻き込んで考えてほしい。青葉区らしいやり方がいろいろあると思うので、考えてほしい。</p> <p>医療介護連携事業について、少し前までは医療・介護間の連携ができておらず何かあっても対応できない状況だったが、この事業を通じて、実際にどのような課題が出てきているのか。</p> <p>認知症医療関係連絡会について、青葉区でやる場合、そのような連携はどのくらいの規模でやっていくのか。進めていくうちに、課題もいろいろ出てくると思うが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>認知症初期集中支援チームの支援ということで、施設を含めての取組なのか、どのようなチーム、グループでやっていくのか、伺いたい。</p> <p>道路について、青葉区には大きな病院がたくさんあるが、高齢者が電車を使って駅から病院まで歩く際に、例えば江田駅から病院へ向かう際の歩道などは歩きづらい状態になっている。高齢者のことを考えたまちづくりということで、地域で暮らす人たちのことを考えた、青葉区らしい、歩行者優先の、安心して病院まで歩けるような道路づくりをお願いしたい。</p>
樋田こども家庭支援課長	<p>DVについて、問題を抱えている方は、生活保護や、戸籍、警察、精神科などに相談に行っている場合もあるので、そういった関係機関とも十分に連携を図って、今後も進めていきたいと思う。児童虐待については、やはり啓発が大事だと思う。区民の皆さんには、区民まつりや広報等でも広く啓発を進めており、保育園、幼稚園、主任児童委員や学校などの関係者とも、より連携を深めていきたいと思っている。平成29年度の新たな取組としては、新聞配達員や青少年指導員の方々にも虐待について知っていただくようなミニ講座も開いている。</p>
室山高齢・障害支援課長	<p>医療介護連携の課題について、現在、医療介護の連携ノートを作っている。今までグリーンノートと呼んでいたが、先行している鶴見区に合わせて黄色いノートにしている。いざという時に、救急隊が患者さんの搬送の際にこのノートを持って行くというもので、これを普及させていきたいと思っている。同時に個人情報などをたくさん扱うようになるので、その管理をしっかりしていきたいと思う。また、一人暮らしの方もこれから増えていくので、その方たちにどうやって支援を的確に届けていくかというのも、今後の課題である。</p> <p>認知症の初期集中支援チームについて、青葉区の場合は横浜総合病院に委託をしている。地域包括支援センターから相談を上げて、そのチームが訪問したり、いろいろなご相談に応じたりということを行っている。事例としては年間で10件ぐらいしか上がってきていないが、医師が直接自宅まで訪問できる初期集中支援チームもあまりないといったところでは、青葉区では横浜総合病院さんに頑張ってもらっている。</p> <p>認知症の医療機関の連絡会について、認知症を診療科目に標榜している病院が横浜総合病院、江田記念病院などをはじめ、その他のクリニックでも2、3か所しかない。そのような専門の先生だけでは、これからの認知症は診られないだろうということで、かかりつけ医にいかにか認知症の対応をしていただるかといったところを連絡会で話し合っていきたいと思っている。</p>
小池区長	<p>先ほど申し上げた黄色いノートについては、タブレット端末を使った連携だけでは難しい部分を黄色いノートでも補完して、医療介護の継続的な支援のノートにしようということで取り組んでいる。</p>

木村土木事務所副所長	道路の関係について、江田記念病院に向かう国道246号の歩道が大分狭くなっている状況は把握している。国道は国の所管になるので、そちらにも確認したいと思う。
青木議員	児童虐待対策のところで、相談を保育付きで行うということだが、これは区役所の中で行われるのか。
樋田こども家庭支援課長	区役所の中である。
青木議員	<p>例えば地域子育て支援拠点や、今度サテライトもできるが、そういったところでも広く相談を受けられるように、入口を広げていくような体制強化をとったほうがいいのではないかと思う。</p> <p>一時預かり事業所連絡会について、一時預かり事業は青葉区は非常に進んでいて、ここに目をつけられたというのは非常に大事な視点だと思う。一番入口のところでちょっと保育をお願いしたい、というようなところに集中することとも言われてきている中で、この一時預かり事業連絡会という視点はすごくいいと思うが、今から始めましょうと言って年に1回集まるというようなやり方よりは、もう少しざっくりばらんに事例について話し合えるような、ケア会議に近いような形での開催を目指したほうが良いのではないか。</p> <p>弁護士を交えた検討会の実施も非常にいいと思うが、そのあたりの体制についてもお伺いしたい。</p>
樋田こども家庭支援課長	児童虐待対策の連絡会については、すでに平成29年度に1回やっており、各事業所から課題が多く出されている。これまでデイレスパイト事業をやっていたが、そこでしか緊急のケースを受け入れられないというわけではなく、どの事業所も何らかの工夫をすれば空き枠もあって、そこをどうにかうまく活用できるように、皆で知恵を絞ってできないかというような意見も出ている。資料上は1回の開催というようになっているが、それぞれ関係する皆さんに集まっていたきながら、知恵を出し合い、それを重ねていい事業へと進めていきたいと考えている。
大貫議員	<p>「住み続けたいまち」ということで、区民意識調査をやった時も指摘したが、確かに個性のある良い駅前というのは非常に大事だが、駅周辺の地域で、住み続けたくても交通が不便だから嫌だという人がいた。やはり今一番大きな問題は、特に奈良北地区の周辺が非常に交通不便地域であることだと思う。こどもの国線の最終電車があまりにも早く、また雪などが降ったときも含めて非常に交通の便が悪い。こどもの国線の利便性を高めていくなど、何が問題なのかということも含めてリサーチもしながら、そのあたりを検討してほしい。</p> <p>また、区提案反映制度で老朽化したインフラの更新と災害に強いまちづくりで2500万円ついている。青葉区のまちづくりというのは、やはり街路樹が非常に大事であるので、きちんとそこに充てるように要求しておきたい。</p>
小池区長	<p>こどもの国線の問題については十分理解できる点なので、研究していきたいと思う。</p> <p>郊外部については、コミュニティリビング事業というのを東急電鉄さんと一緒に進めており、今はたまプラーザエリアだが、これからは鴨志田や奈良といった郊外エリアについても進めていく。そこで自活できる生活圏をどう作っていくか、それによってその地域に人が住みつきやすくなると思うので、その観点は引き続き、より力を入れてやっていきたいと思う。</p>